

橋に咲く

仕事もマラソンも1歩ずつ
 宮地エンジニアリング 関西支社
 関西業務部長(兼 関西橋梁営業部
 橋梁・開発営業部第2グループリーダー)
村島 千賀子さん

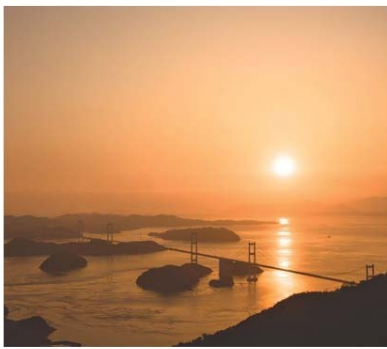


宮地エンジニアリング初の女性部長として、今年春に就任した。会社が進める女性の戦力化策の一環だ。
 毎朝、橋梁・土木関係の新聞記事をチェック、きめ細かく情報収集し、社内へ共有する。
 「あの情報、役に立つたよ」
 上司・担当者のさりげないひと言は、「労いほ



来島海峡大橋

は「十分過ぎる」と思う。経営会議での会社の方針や様々な情報の水平展開・通達、規定の周知・徹底もある。支社約50人の健康管理も担当だ。そして今、「えるほし



夕陽に染まる来島海峡大橋

認定「取得のためのワーキンググループを提唱し、先頭に立つ責任とやりがいを感じている。女性活躍推進法に基づき、採用や働き方、管理職比率などの評価項目で、女性能力を発揮しやすい企業を厚生労働省が認定する制度だ。
 細かい仕事を1歩1歩積み上げることで、「組織運営を円滑にし、事業計画を推進できる」。そんな地道な「コツコツ」が性にあっていくといっ、1歩ずつ積み上げるの



音無瀬橋

は、趣味のマラソンに似ている。水泳中に誘われて始めた。駅伝、5km、10km、ハーフと距離を延ばし、フルマラソン、ウルトラマラソン、トライアスロンまで挑んだ。
 京都・福知山の大会では、夢の大阪国際女子マラソン出場タイムにあと5分及ばなかったが、会社で手掛けた音無瀬橋を誇りしかった。
 「しなみ海道を渡る100kmウルトラ遠足(とおおし」と読む)。過酷な距離だが、世界でも唯一無二の海峡道路。会社が架けた橋を走って渡りたい」とチャレンジした。

村島さんに聞く「炭治郎「心が原動力」」

①今年を振り返って部長就任の重責、そして女性の戦力化策の一翼を担う立場となり、とても不安で戸惑ったが、日々、葛藤しながら、一生懸命向き取り組んだ。
 これからも少しでも貢献できるよう、そして微力ながら女性活躍を推進できればと思う。
 ②女性活躍、世の中の流れをどう思うか
 女性活躍推進法が施行され、女性もワークスタイルの選択が広がり、多種多様な働き方、生き方を選択できるようになってきた。まずチャレンジする。その気持ちが大切。全ての女性にチャンスと活躍の場がある。
 ③来年の抱負



手帳にはメモがびっしり

「スタートから間もなく連なる長大橋を上り下りしながら走る。」
 「柱太で、格好いい」と軽快だったが、70kmを過ぎると足は次第に重くなった。止まると一歩も動かない。止まると一歩も動かない。止まると一歩も動かない。

「漫画「鬼滅の刃」主人公・炭治郎のセリフに共感した。
 「頑張れ!! 人は心が原動力だから心はとまっても強くなる!!」
 「心が原動力」。肩の力を抜いて、チャレンジする気持ちを大切に、やりがいや少しでも貢献できた実感が原動力となるようにしたい。

口滑に、働きやすい職場環境を作りたい。女性社員が希望を持ち、モチベーションを高めることに少しでも寄与できるように努めたい。